

Title	臨床哲学のメチエ 第20号 欄外
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 2013, 20, p. 64-64
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24943
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

まず、ご多用中にも関わらず、臨床哲 学のメチエ 20 号に寄稿していただい た皆様に、この場を借りてお礼申し上 げます。どうもありがとうございまし た。様々なバックグラウンドを持った 方々が執筆してくださったお陰で、内 容に広がりを持たせることができまし 1:0

編集作業をしながら、自分自身の哲学 のスタイルについて考えました。汗を かき、泥だらけになり、もがきながら 哲学をするスタイルがあっているのか もしれないと、思いはじめています。 (つじ あきのり)

今号は、復刊以来もっとも多様な実践 が収録されたものになりました。寄稿 していただいた皆様、貴重な実践/思 考の数々を『臨床哲学のメチエ』の場 で報告していただき、誠にありがとう ございました。また、発行が新年度ま でずれこみましたことを、この場を借 りてお詫びいたします。

頁数・内容ともに大幅に厚くなった 『メ チエ』20号をお楽しみください。 (きむ ふぁよん)

2.0号は期せずして三分の二もが初寄 稿となりました。本号は、おなじみの 哲学カフェや哲学教育だけでなく、歯 医者さんでのカフェの試み、放射線問 題と対話のありうべきかかわり、そし て絵本から臨床哲学への道が語られる 「雑多な」一冊です。

また本号は同時に、東京での哲学教育、 さらにはハワイでの「こどもの哲学 (p4c)」の経験の記録でもあります。 今後も、関西の内外にかかわらずさま ざまに展開される活動と思考を多様な ままに接続していきたいと思います。 次号以降の『メチエ』もどうぞよろし くお願いいたします。 (かわさき ただし)

※編集にあたって、元倫理学専修で、 現在は大阪大学大学院人間科学研究科 に在籍の赤阪辰太郎さんにお手伝いい ただきました。この場を借りて感謝い たします。